

〈校訓〉

夢がもてる我が母校を創ります



港区立芝浦小学校
学校だより 令和6年1月号
発行 令和6年1月9日

芝浦だより

竜のごとく

校長 井田 孝

令和6(2024)年を迎えました。新年 おめでとうございます。本年も、変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



今年の干支は甲辰(きのえ・たつ)、十干(じっかん)である甲乙丙丁…の一番目の「甲」と、十二支(じゅうにし)唯一架空の生き物「竜(龍)」の組み合わせの年です。竜は古代中国の神話で神獣とされ、中国では皇帝のシンボルとなっていました。そのため、竜衣:帝王の衣服、竜影:帝王の姿など、最上級の意で竜を用いた言葉があります。縁起の良い年になりそうです。

新年を迎え、一年の抱負を考えたり、楽しみなことを計画したりしたご家庭も多いのではないのでしょうか。今年には8月からパリでオリンピック・パラリンピックが開かれます。また国内では、2004年以来20年ぶりに紙幣のデザインが一新されます。聖徳太子から福沢諭吉になったのは1984年なので、1万円札は40年ぶりに人が変更します。新紙幣にする大きな目的は偽造防止と言われていますが、私はある国に旅行へ行ったとき、レストランで食事をとった際、おつりでもらったお札が偽札だったことがありました。おつりをもらったときにはそれだと気が付かず、その後の買い物でおつりのお札を使おうとしたところ、店の方に指摘されて発覚しました。幸い偽札を使おうとしたということで罰せられることはなかったのですが、苦い経験となりました。キャッシュレスが広がっていますが、最先端の技術が採用された新紙幣を手にする日が、とても待ち遠しいです。

今月は書初め会、書初め展が予定されています。新年の抱負を心新たに、書の上達、学力の向上を祈念しながら、取り組んでほしいと考えています。「登竜門」という言葉をよく聞きますが、最近「〇〇は△△になるための登竜門」という使い方をされることが多い印象です。しかしこの言葉には、竜門と呼ばれる急流を登り切った鯉は竜になる、という伝説から、困難なことを乗り越えると立身出世や成功するという意味があります。変化が激しく予測困難な時代だからこそ、芝浦の子供たちが困難を乗り越え、竜のごとく天高く飛躍する一年になるよう、教職員一同、力を尽くしてまいります。



本校の教育活動について

今月の目標

生活 校内のきまりを守ろう

給食 給食について考えよう

保健 かぜや感染症を予防しよう

清掃 隅々まで掃除しよう

生活科の学習について

生活科担当 野島 美砂

生活科の学習の基本は「体験すること」。いろいろな体験を通して、自分自身、身近な人々、社会、自然について一体的に学ぶ教科です。知識と体験が結びついて実感が生まれると、身体にしっかりと刻まれます。「自分でできる」「自分で考える」「考えたことを表す・伝える」「もっと学びたくなる」。生活科がめざしているのは、こんな学びです。花や野菜を育てたり、季節の遊びやおもちゃを工夫して作ったり、町の素敵などところを探したり、家族や幼稚園・保育園の友達のために自分にできることを考えて試したり…。保護者や地域の皆様のご協力のもと、学習をすすめています。

「6年生がプロデュース！ みんなが喜んで食べる給食の献立を考えよう」

家庭科専科 石澤 美智子

2学期後半、6年生は、一食分の献立を立てる学習の発展として、実際に芝浦小学校の実態を見据え、全校児童が喜んでおいしく残さず食べる給食の献立を考える学習を行いました。栄養のバランスがとれていることは大前提。どうしても残ってしまいがちな白いご飯を残さず食べられるような主菜、副菜、汁物を班ごとに話し合いながら考えました。強い味方は、栄養士の深沢先生がその場で質問に答えてくださったり、アドバイスをくださったりしたことです。5クラスで考えたプロデュース献立は、3月上旬に給食に登場する予定です。そのプロデュース献立を、全校児童、特に6年生がどのような表情で食べるのか、今から楽しみです。ご期待ください。

書き初め会について

書写担当 榎本 佑花

1月10日(水)から1月12日(金)に書き初め会があります。「書き初め」とは、日本の伝統行事の一つであり、新年になって初めて筆で字や絵をかくことです。1年の抱負や計画、おめでたい言葉をしたため、目標成就や新年のお祝いをする意味が込められています。本校では、1・2年生は硬筆、3～6年生は毛筆で、作品は1月22日(月)から1月27日(土)に書き初め展として各学年の廊下に飾られます。子供たちが一文字一文字丁寧に書きあげる作品をぜひご覧ください。

「挨拶」「返事」で、自分が快適になる

生活指導主任 櫻木 泰自

私は泉岳寺駅から徒歩で芝浦小に通勤しています。その間の大半は、「お化けトンネル」を含む再開発現場です。10名くらいの方々が所々に立って、歩行者の安全を見守ってくださっています。その方々に私は、往路は「おはようございます」、帰路は「お疲れ様です」と挨拶をしています。警備の方々は、歩行者に声掛けをしていますが、私のことは「特別視」してくださっている方もいると、感じています。郵便局や薬局で名前や番号を呼ばれば、私は手を挙げて「はいっ」と言います。芝浦小学校の朝のホール(玄関)で、「おはようございます」と声を出すと、一斉に声が返ってくる、とはまだいえない状況です。「挨拶」「返事」の習慣化は、教育の原点だと、私は考えています。